

【なぜ人は海外にいると言葉がペラペラになってくるのか？】

どうもゆうです！

読者さん、おはようございます！！

さてさて、前号で

【ゆうの考えるコーナー】楽天主義の人はこれから破滅せざるを得ない
という号を流しました。

相場なんかはまさにそうだと思うんですけど

楽観主義の人って大体損してるんじゃないかな、という感じで

意外に悲観主義の人は資金を安定的に増やしているってのが

あると思いますので

やはり生き方全般を市場で「長く」稼ぎ続けるためには考える必要が

あるな～なんて考えていました。

さて、それで今日は海外の話なんですけど

私は今韓国におります。基本的にはマレーシアにいるのですが

私の場合日本語と英語とあと韓国語を話せるのですが

この韓国語の部分を鍛えたいと思ひまして、定期的に韓国には

おります。

それでやはり海外にいて私が最も楽しい部分ってのがあって
幸せ？を感じられる部分があって、それは色々あるんだけど
中でも「今まで聞こえなかった言葉の音とかが聞こえてきて
言葉の意味が分かってくる！」

っていう感動があるんですね。

日本人だとおそらく英語学習をしてる人は多いと思うんですけどね、
やはり英語なんかはあれ最初は「宇宙人」が話してるように
聞こえるものです。まったく聞き取れない、リスニングできない。

けど、これって海外にいと不思議と1ヶ月2ヶ月・・・
と経過するに従って「音が捉えられるようになる」んです。

私のメルマガ読者は海外志向の人はかなり多いと思うんですけど
けど一番多いのが「海外に移住っていても語学が不安だな～」ってのが
あると思います。

が、大丈夫！

今号を見たら「なーんだ、人間ってのは語学をこうやって簡単に覚える
「機能」があるのだな」と分かる。

こういうのを知るとコンプレックスは一つ減るだろうから
知るのは大事。

【なぜ人は海外にいると言葉がペラペラになってくるのか？】

さてさて、私は現在韓国におりまして、日々韓国語を勉強しております。

それ以外にも投資やビジネスの勉強は常にしているし

あとは政治経済とかの分析ってのも定期的に書いてるように

かなり調べたりしておりますね。

ちなみに最近はまだ韓国なんかでは満面の笑みの金正恩が

よく報道されております。

もうこれから韓国と北朝鮮はどんどん緩やかに統一状態になっていくな

なんてのは現地にいるともう感じざるを得ないですね。

なので北朝鮮の需要を韓国企業は取りに行けるはずなので

長期で株を保有するという考え方だと

一度アメリカの債券市場が崩壊した後に韓国の KOSDAQ も少なからず

影響を受けて40%とか50%のダウンは想定できるんだけど

やはり長期では韓国市場は北朝鮮というケーキを手に入れたので

伸びる確率は高いだろうなとおもいますね。

日本の証券会社でも韓国の KOSDAQ 上場株は買えるから

まあ興味ある人は一生持つつもりで保有してみても面白いと思います。

日本株よりは成長率が長期では高くなるだろう、と私は見てます。

さて、それで、私は現在韓国におりまして、

この前は日本の東京と大阪行ったり来たりして

またその前はマレーシアのランカウイ島やらクアラルンプールに

いたりして、

なんだか忙しい感じではありますが、

私が結構こうやって移動しているのは

「語学学習を早く若いうちにどんどんやっておかないと

後で後悔しそう」ってことなんで

現地にいって勉強したりってのをやっています。

ちなみに10代のころの私の目標が

「日本以外の世界の国々で生活しながら色々な価値観を

感じながら生きてみたい」

ってのがあったんですね。

けど当時は母子家庭だったし、留学なんてとてもできませんでした。

だから英語は独学でなんとか勉強していたわけですね。

ただ投資やビジネスで稼げるようになって、お金は困らなくなり
ましたからこうやって海外にいながら生活して語学を勉強しながら
ネット使って稼ぐということができるようになったわけです。

まあそれで10代のころは金銭的な事情でできなかった「海外で
色々な文化や語学を学んでいく」ってことは

ようやく30代になってできるようになったんだけどまあやっぱり
おっさんになっても学んでいると色々な発見があるもので、それを
今日書きたいな〜と。

それでたぶん語学についてコンプレックスを抱える日本人は多いはずで、

海外移住とかには興味があるってのは最近では日本でもすごい多いのですが

ただ色々意見を聞くと「けど語学が不安だな」という人はどうしても多いわけですね。

まあそれが強力なマインドブロックとかストッパーになって

しまってる人はかなり多いのではないかと想像します。

ただ・・・一言でいうと「大丈夫」なんです。

英語で言えば **Everything's gonna be alright**

韓国語で言えば ケンチャナヨで

「ここはなんとかなる」んです。

この語学については、前号の絡みで言えば、

楽天主義で良いわけです。

それで私が海外にいて感じる「脳みその変化」ってのが
あるんですね。

これ私は自分の脳みその変化を常に自分で観察する癖があって

これは子供の頃からなんだけど

語学を海外でやっていると脳みその解明されていない部分が

どんどん自分で分かってくるわけです。

これは今の科学者たち言語学者も解明できていないんですよ？

けど私は分かっているという。

だから私が今号で書くようなことが数十年経過して

いずれ科学でも解明されていき、人々の常識になるってことですね。

それでこれは時々書くことなんだけど

「日本人はなんでリスニングができないのか？問題」

がありますよね。

これは私は声楽を誰よりも当時勉強していて、

ソニーとかの専属ボイストレーナーより私のほうがこの辺は

詳しかったので、まあ色々知ってることがあるわけです。

声を扱う業種ではこれは非常に重要なテーマなんだけど

全然研究されていない問題です。

それで「日本人は英語が聞き取れないし話せないし、リスニングが

できない」

っていう問題があるんだけど

これは何ですか？分かりますか？？

これはですね、日本語というのは「あいうえお」という

母音がありますけど

全ての音に「あいうえお」の母音がつく言語なんです。

母音とは英語で Vowel でしたっけ。

それで実は世界でこの「全ての音に母音が付随する言語」
っていうのはどうもポリネシア語と日本語だけなんですね。

そのほかの言葉というのは例えば英語だと

s の音や t の音みたいな感じで「子音だけの音」が必ずあります。

えっと、子音だけの音っていうとたぶん日本語だけの話者だと
想像付かないと思うんですけど

これは今やってみてほしいんですけど息を吐いてください。

「スー」と。

それで舌でその息を口の中でさえぎってほしいんですけど
そうすると「スー」という音になりますね？

これが英語の s の音です。

そこでは声帯が揺れて「あいうえお」みたいな音が付随していない
のに気づくと思いますけど

これが、s の音です。

だから息の音ですよ？

これを子音というのだけでも、日本語にはこの子音だけで
完結してる音ってのがありませんから

私たち日本人は日本語で育ってきているから、そこで
子音だけの音をうまく捉えられない脳みその構造がどうも
あるんですね。

それでこれは発声の話になるんですけど

「母音だけで完結する音で暮らしている民族」

と

「子音語も含んだ音で暮らしてる民族」

の発声方法というのは実は違いまして、

上記のように子音も含んだ言葉を話している民族

というのは外喉頭筋っていう筋肉をあまり酷使しないで

話すようになるんですね。

ちなみに声楽では、この外喉頭筋ってのは使ってはいけない

筋肉といわれてまして、この筋肉が作用していると

例えば音程を発声したときにビブラートを周波数にあわせて

かけられなくなったり、

あとは男性であれば高い音になったときに声が裏返って

ファルセットになってしまったり、

あとは長く息を維持してロングトーンといますが

「あ〜〜〜」と長く発声ができなかつたりするわけです。

これは私は声楽で外国人に歌を教えていた経験もあるので

分かるのですが

日本人の場合 例えば「長く音を伸ばして発声してください」

といっても、大体「あ〜〜」とやれば数秒しか持ちませんが

外国人にそういうと「あ(A)〜〜〜」と発声しても

20秒、30秒と素人でも伸ばせるんです。

これは息が声帯で原音に変わってそれが体の

共鳴する場所が沢山あるんだけど、そこで

息が声帯に変換される効率性が高いってことです。

だから同じ息の量でも、肺活量でも

外国人の子音を含む言語で暮らしている人たちってのは

長く音を伸ばせるわけです。

だから発声自体が全然 子音言語を含んだ民族と

日本人とかポリネシア語の人たちの母音が絶対に付随する

言語で暮らしている人たちってのは違うんですね。

日本だと演歌が分かりやすいけどああやって喉を絞めて発声したり

するわけですが、

あれは外喉頭筋を強烈に酷使したりしてますね。歌舞伎もそうです。

これは日本の歌手たちの歌う姿を観察すると分かりますが

外喉頭筋を行使して歌うため、

例えば顎とかにすごい力が高音で入るわけです。

だから歌ってる最中に「首を振る」ってのができないわけですね。

一方黒人なんかの歌ってるときとかはあえて

歌ってるときにノリにあわせて「首を振る」わけですが

あれをじゃあ日本の歌手たちに「歌ってる最中に首振って」

といえできないんです。

音程をキープできないんです。

この辺の発声部分でのある種のディスアドバンテージ、

これが日本人の音声表現の大きな課題であるわけですね。

これは現場のアーティストたちってのはみんな分かっているから最近ではあえて海外に留学しにいったりするアーティストが多いわけです。

例えば外国のシンガーは非常に高い音のC(ド)の音を地声でヒットしてしましますが、

例えばそれは世界で人気なブルーノマーズとかがそうですね。

一方日本でその辺を地声でヒットできるアーティストとなるとほとんどおらず、森進一さんの子供であるタカさんがボーカル勤めるONE OK ROCKとかかなり数は限られます。

高い音というのは一番盛り上げたいシーンですからそこは地声で強く表現することが世界の音声表現の基準では必要なんだけど、

どうしても日本の歌手たちはここで日本語のディスアドバンテージを乗り越えられないから、

そこで地声ではなくファルセットになってしまうわけですね。

ちなみにこういうところを海外のリスナーたちはかなり厳しく聞き分けるのですが

それが JPOP が世界で聞かれておらず、KPOP が最近

アメリカやヨーロッパや東南アジアで人気が出てる理由でもありますね。

ちなみに日本で有名な宇多田ヒカルさんがなぜうまいか？

というと簡単にいうと英語話せるからであって

そこで外喉頭筋を使わない発声ができるから

そこで効率的な発声(本来の動物としての発声)が

できるからですよ。

これは同じく青山テルマなんかうまいのもそう。

まあだから 母音付随の言語をずっと話している民族は

どうしても発声部分での違いがあるので

今の世界の子音を含んだ言語がメインで話されてる現状においては

色々と克服する課題が増えてくるってことです。

だから、これは英語なりの

リスニングの問題にもつながっております、

例えば私たち日本人は私も10代の頃経験してるけど

英語のニュースを聞けばそれはまるで「宇宙人が話してるように」

聞こえるわけです。

何か英語のフレーズがあったとします。

CNNなんかは今日は英語のニュースとして

"Trump talks like a racist"とかいつもながらにディスってる

わけですけども

これは日本語で「トランプは人種差別主義者のように話す」

という意味です。

まあ私はそれでもトランプの支持者だけど例として

CNN が扱いやすいので挙げてるだけです。

それで、この

Trump talks like a racist は

日本のカタカナですとトランプ トークス ライク ア レーシスト

なんだろうけども

実際は「トークス」の「ス」の音は上記でやっていただいた

「s」の音で子音だったりするので

本来はカタカナで表現できないわけですね。

だから私たち日本人はそれを「音として認識できないから」

だからこの一文を CNN のキャスターが話しているのを聞けば

まるで「宇宙人がごにょごにょ」言ってるように聞こえるんです。

すなわち「トランプ」くらいは認識できるけど

「like」と CNN キャスターは話しているのに

その「like」ってのを「音として認識できない」となるわけです。

だから CNN キャスターは「like」と発音してるのだけど

私たち日本人には「うにょにょ」という音に聞こえるわけです。

これが日本人のリスニングの問題としてあるわけですね。

ただ、これは子音語を含む音で育った民族の場合、

だから韓国人なんかもそうだし、マレーシア人もそうだけれども

彼らからしたら、英語は苦手な人は多いんだけど

とりあえず CNN キャスターが「like」と話していれば

「ライ」くらいの音は認識できるんです。

というのは、母音の深さってのがあって、それが一緒だから。

厳密に言うと日本語の「あ」の音と英語の「A」は同じく

「あ」と発音しそうだけど

違う音なんですね。

日本語の「あ」は外喉頭筋を作用させる音で

浅い音になるんだけど

英語の「A」の音は深い音です。

日本語の「あ」の音を口先だけで発声して見ましょう。

そのときに胸に手を当てると若干、振動があると思います。

この胸の振動が強烈になるように「あ」を発声すると

少し太い声になりますよね？

これは日本語の「あ」の音から英語の「A」の音にちょっと

近づいてるんだけど

少し音自体が違うんです。

だからこれは上に宇多田ヒカルのことを書いたけど

彼女が「あいしてる」という言葉を歌うとき

宇多田ひかるの「あいしてる」の「あ」は日本語の「あ」じゃなくて

英語の「A」とかの音に寄って発声してるんですね。

「なんかうまい」と私たちは思うわけですけど

その「なんか」はどうやって作られるか？というと

このような違いがあって、作られる。

例えば営業マンでも「なんか」あの営業マンと契約してしまった

ということがないでしょうか？

実はその営業マンはこういう発声学を理解してまして

深い音をあえて作ったりします。

そうすると成約率としては20%アップとかそういうレベルではなく

300%400%アップとかになります。

日本のセミナーコンサルの講師とかいるけど彼らはやはり

水準は低いと私は思っていて、

彼らの場合は「どうクロージングするか、どういう言葉を使えばいいか」

とか表面しか見えていないのだけど

実のところ本当のトップ営業マンは上記の声楽まで理解して

声のコントロールを行ってトップになってるんですね。

こういう指導方法は日本でできる人はいないんだけども
まあそこで困ってる人たちは色々多い。蛇足ですけども。

それで実は私たちが「なんか」と思ってるところの後ろには
こういう声楽の事実が隠れているんですけど

だから「あいつは不細工なのになんかモテるな～」とかあると思いますが
それはその不細工は声楽を理解してたりするわけですね。

まあそれで、英語とか韓国語とか中国語でもいいけど
日本人はリスニング問題ですごい色々苦勞するんだけども

それは上記の話を読んだら分かると思いますが

すなわち「普段使ってる音があまりにも違いすぎる」んですね。

だから母音自体が全然違うし、全く違う世界の音を
海外に行くと学ばざるを得ないので

そこでどうしても私たち日本語話者たちは海外に出ると
苦勞することになる。

それをみんな分かってるから、だから

「海外移住といっても言語が不安だな～」みたいところで

一歩踏み出せなくなっているわけですね。

それで「とりあえず日本で英語の勉強をして
英語が分かるようになったら海外に移住しよう」とか
思うわけですが

一向に英語は聞けるようにならないわけです。

けどこれは実は問題ないといえまして、
「現地に行ってしまうえば問題ない」んです。

というのが私は海外にいて自分の脳みその違いを感じるのだけど
私も最初海外に行った時

それこそ英語や韓国語を話す現地の話者たちの言葉を聴いて
まさに「宇宙人が話している」ように感じたのですね。

すなわち、音自体が捉えられないので何を言ってるのか
分からない。

簡単な言葉でも そもそも音が聞こえていないから
何言ってるのか意味不明なわけです。

ただこれはですね、面白いことに「現地にいると
どんどんその新しい音に人間の脳みそは慣れて来る」

機能がどうもあるんです。

これは不思議なもので、現地にいると最初は
宇宙人がペラペラ話してるように聞こえていたのに

徐々に

「音」が捉えられるようになるんですね。

例えば、私は韓国にいるけど韓国でよく使われるのが

「ケンチャナヨ =大丈夫」という言葉です。

これは結構曖昧な表現を好んで のんびりしてる韓国の人たちが
よく使う言葉なんだけど

この「ケンチャナヨ」もカタカナで書くと全然違う音なんだけど

例えばこれを韓国の人が言っているとしても

「ごによごによ」と聞こえるわけです。

とりあえず「何かこの韓国人は音を発してるけど

何を言ってるのかわからない」

わけですよ。最初は。

けど現地にいて生活をしていると徐々に

ケンチャナヨの「ケ」の音が聞こえるようになってくるわけです。

そしてもっと長くなると「ナヨ」とかの音が聞こえてきて

また長くなるとその言葉が「ケンチャナヨ」って言ってるのが

分かるわけです。

だからあとはその言葉の意味が分かればコミュニケーション取れる

ようになるんですね！

それでこれが人間の脳みそのすごいところでして

すなわち全然違う音を 日本出身の自分は捉えることはできないのに

現地にいると徐々にその

「全然違う発声で奏でられる音」を聞き取れるように

なってくる。

これは英語も韓国語も中国語も全部一緒ですね。

だからあとは相手の言ってる「音」は聞き取れるから

あとは文法とかその相手が発してる単語の意味を

知っていれば相手の言ってることは

理解できるようになるわけです。

すなわち相手が宇宙人のように「ごによごによ」と言ってるように

聞こえていたら完全にお手上げだけど

とりあえず意味は分からないけど「ケンチャナヨ」と言ってるとする。

その「ケンチャナヨ」は聞き取れるようになったとする。

そうしたらあとは「ケンチャナヨ」ってどういう意味だ？

と調べれば「ああそうかあの方は だいじょうぶ ってことを

言ってるんだな！」と分かってくるわけですね。

こうなってくるとどんどん言語コミュニケーションが面白くなる

ということです。

恐怖どころか面白くなる。

~~~~~

こうなってくるとどんどん言語成長が始まるわけですね。

仮に私のようなおっさんでも。

だから面白くないですか？

「おっさんになってもまるで赤ちゃんのように成長できる」

っていう体験はなかなかないと思うんですよ！

私が海外にはまってしまってるのはこういう成長を

常々感じられるからってのも大きいんだけど、

面白いですよ～

それでだから私が言いたい要点というのは

「日本で言語を準備して海外に行くとかいうよりも

~~~~~  
現地に行ってしまえばなんとかなる」
~~~~~

ってことです。

これは私のパートナーなんかは日本人ですから

そして全く言語は私みたいに全く基盤がなかったんだけど

やはり海外に2ヶ月でもいれば色々聞こえてくるんだと。

大体2ヶ月～3ヶ月ですぐいふんと言語を聞き取る能力は

「現地に滞在してるだけで」上がってくるものです。

これは不思議なものですけどすなわち現地に滞在するだけで

脳みその音をキャッチする分野で変化が起こってるってことです。

今までは例えば子音を「音」として認識できなかったのに

脳みそが現地で調整して、

そしてその子音を「これは言語の音の一部だよ」ということで

脳みそが認識してくれるわけですね。

子供とか赤ちゃんはこれが早いんだけど

大人のおっさんでも、この脳みその機能はちゃんと使われている

と私は発見します。

だからどんなに日本の現地でリスニング教材を聞いても

英語なりをリスニングできなかったのに・・・

現地にいるとリスニングとかはできるようになってくると。

これは不思議ですよ。

実は私自身がそうだったんだけど日本で

様々な英語のリスニング CD を聞いたんです。

たぶん1000時間は聞いたと思います。

が、全然聞き取れるようになりませんでした。



すなわち「聞くだけではこの 違う音で発声される  
母音なりを捉えられるようにはならない」

ってことです。

ここを理解してほしいわけで、すなわち「聞くだけでは  
話せるようになりません」

っていうことです。

それで私は韓国にいて毎日のように大量に韓国語を  
浴びてるわけですが

ただそれなら日本にいながら韓国語を大量に CD なり  
IPHONE で聞いていても同じですよ？

けど例えば上記の「ケンチャナヨ」はいくら

CD なりのデジタル音声を聞いても聞こえるようには  
ならないんですね。

これは私は言語学習を何千時間とやってきてわかったことです。

すなわち、なるべく生身の人間の発する音を聞かないと  
うまくいかないってことですね。

デジタル音のイヤフォンで聞くような音をずっと聞いてても  
どうもこの脳みその言語部分の音を捉える能力は  
向上しづらいわけです。

ただ SIRI みたいに、イヤフォンを使わないで  
スピーカーでコミュニケーションするタイプの言語学習方法なら  
少しそれは向上する。

これはおそらくではあるんだけど、  
声というのはですね、上に書いたけど

声帯で原音が作られ、それが共鳴腔なり  
あとは骨に共鳴して「声」として出てくるんだけど  
(オペラで本当にスゴイ人は背骨を響かせますね)

この共鳴を通じた「音」を常に浴びないとどうも  
この異世界の音を私たち日本人は「音」として認識できない  
ということです。

そういう意味では CD なり IPHONE で聞く、英語の音ってのは  
実際に現地で浴びる言語の英語の音とはずいぶん違うので  
やはりリスニング能力向上にはなかなかつながらないってことです。

聞くだけで聞こえるようになるってのはだから幻想である  
わけです。

ちなみに私ゆうはマレーシア人とかには  
英語をこんなに話せる日本人初めて会ったとか  
何十回も言われたし

同じく韓国人にも  
なんであんたそんな韓国語話せるの  
とかこれもまた何十回も言われたんだけど

この言語については結構言語学者以上に私のほうが詳しい自信は  
ありますね。

それで気づいたのが上の事実です。

それでこれは実際に現地にいると例えば飲食店のおばちゃんとかと  
一日数分でも数十分でもいいけど何かしらコミュニケーションする  
わけですね。

ただこれは重要で、その中で脳みそがどんどん適正化されていて  
そこで「このおばはんの発してる音を捉えよう」となってくるわけで

その日に劇的に変わるわけではなくて

おそらく睡眠時に脳みそが言語野を適正化するんです。

だから、前日は「ケンチャナヨ」という文章ならば

全然聞こえなかったのに

翌日とか1週間経過するとこの「ケンチャナヨ」の「ケ」

が聞こえるようになってくるわけですね。

毎日のように少しでもその音に定期的に接しているというのが

大事です。

そうすると脳みそに刺激があって、それで言語でも

音が捉えられるようになるわけです。

だから、現地にいれば このリスニングとかの音の部分は

「なんとかなってくる」ってことでして

そういう機能が私たちの脳みそにはついてるんです。

すごいですよね？

だから仮にいつか宇宙人がやってきたとして(笑)

最初宇宙人が言ってる内容は分からないでしょうが

長く話していると 脳みそが適正化されてある程度主張してることは分かるようになるってことです。

少なくともそういう機能が人間の脳みそにはついてるってこと。

だから現地にいると脳みそが明らかに変化してるのを感じるわけでその面白さがありますね。

「変化している自分を楽しめる」ということです。

それでこれが長くなってくるとどんどん今まで捉えられない音が捉えられるようになるんですね。

そして相手の言ってる事の今まで10%も分からなかったのが20%、30%・・・70%80%とどんどん分かるようになってくるんですね。

だからこれは10%しか聞けなかった人が「ある日急にリスニングができるようになった」のではなくて、「徐々に徐々に」です。

この「ある日急にリスニングができるようになった」というのはよく日本の教材で見かけるけどもうあれは情弱騙すためですよ。

そういう風に人間の脳みそはできてません。

そもそもその人自身が例えばヒップホップでエミネムの言ってる事が分かるか？といえは分からないわけです。

だから実のところ、英語とかの成長は投資と同じで徐々に徐々に、なんですね。

色々な分野でそういう意味では言語学習の経験は役立ちます。

それで、あと追記すれば

「深い音」を現地にいれば捉えられるようになるわけですけど

韓国語なんかもハングルはあれは深い音です。

韓国の KPOP のアーティストが、すごい太い声で

表現してて声量に驚くことが、音楽経験者はあると思いますが

やはり彼らは太い音を持っているわけです。

これは実際に聞いて見ればわかるけど

これは KWILL (ケイウィル) っていう韓国の R&B アーティストですが

アメリカのブライアンマックナイトのカバーをしているけど

音としては黒人と大差ないわけです。

世界のポップスの音声表現ではこのレベルで歌えないと

勝負できないということですね。



(実際に YOUTUBE 聞いてみよう) KWILL カバーの ONE LAST CRY

[https://youtu.be/N\\_pAz9QbQ6c](https://youtu.be/N_pAz9QbQ6c)

(3分53秒くらいからの音声表現は  
日本でできるアーティストはいないです)



この KWILL の場合は特にアメリカにいたわけでもないですが

英語の発音は英語が話せる私にとっても違和感はありません。

これは上記で説明した母音が英語と韓国語ではかなりの部分

共通してるからです。

それでこれは例えば韓国にいながら上記太い音、深い母音に慣れて来ると

実は英語もリスニングできるようになるんです。

これは在韓日本人でも有名な話なんですね。けど世間では知られていない。

だから、在韓日本人で長く韓国に滞在してる人で

韓国語はペラペラな人って結構若い人多いんだけど

彼らはそのあと、英語の勉強するんですね。

けど英語のリスニングは大体できる状態なんです。

実際に私は20代でそういつてる在韓日本人にも会いましたし

私自身の経験でもそうです。

深い母音の音にどの国でもいいから慣れてくると

英語でもマレーシア語でも意味は分からなくても

相手がどういう音を発してるかは認識できるんですね。

だから辞書があれば意味を調べてコミュニケーションが可能になる。

だから深い母音の音はどの国でも共通でして

どっかその辺のアジア国で現地の母音になれてしまえば

英語もある程度リスニングはできるので

文法と単語の意味さえ分かっていたら話せてしまうってことでも

ありますね。

だから今まで私たち日本人にはどうしてもこの言語上の制約

ってのがあって、

他国との距離が開いてしまうというのがあったんだけど



これは私は日本出身の日本語で育った日本人として  
ソリューションを現地で発見しております

すなわち上記の「人間の脳みそは異世界の音にも  
2ヶ月3ヶ月といれば慣れて来る」

という機能があるわけなので

それを利用して

(仮に最初は不完全でも)

現地に行ってしまうばなんとかなる  
ってことなんですね。

多くの日本人は失敗を嫌がる傾向がありますから

それこそワールドカップでも川島選手のあのセービングの失敗を  
すごい叩いてるのが印象的ですが

やはり失敗を恐れて完璧を求めるよりはどっちかという

不完全でも行動してしまったほうが成長が早いということですね。

これが飛行機の操縦とかだったら失敗したら全員乗客が死亡してしまうので

飛行機の操縦士とかは完璧であってほしいですが

ただ言語なんかに関しては仮に最初話せなくても

現地で死ぬわけではありませんから

とりあえず行ってしまったほうが早いってことですね。

上のことを知っていればおそらく多くの海外移住を志す人たちも

かなりハードルが下がるんじゃないかな？と思ひまして

今号を書きました。

だから言語は完璧でなくて大丈夫っていうことで

「とりあえず現地に行っておけばなんとかなる」

ってことです。

そういうことを知っていれば実のところ語学というのは

かなり楽勝分野であるってことですね。

ただそこで徐々に母国日本語以外の語学が身についてくるわけですが

そうなってくると自分の可能性が単純に倍以上になるわけで

それこそ投資対象なんかも考えると今までは自国の株やビジネスしか

なかったのに

他国の株やビジネスの可能性も見えてきて儲ける機会は

当然増えてくるわけです。

すなわちこういうマインドで動いてる人の中で

これから国際的に国境を越えて資産を形成する人間が

大量に出てくるだろうということでもあって

実のところ最近ユダヤより華僑の影響力が強くなってるけど

実は華僑がこういうことを長年やってきたんです。

だから華僑は怖いくらいに金持ちなわけです。

が、日本人も人数は少ないとはいえ、上記のようなことを

知ってれば海外でも勇敢に生きていけると思うから

そこで資産は形成できるでしょうから、そういう日本人が

増えたらこれはこれで面白いかなということです。

だから色々な分野がありますけど

「とりあえず勇気出してやってみる精神」

って大事ですね。

「勇気」。これは大事です

特に今若い人は、上記のようなことを知っていれば

日本だけじゃなくて他の国でもいろいろ勝負できるように

なると思うから、

ぜひ可能性を広げてほしいな～とか思いますね。

特に最近アジアの若者が元気な感じだけど

日本人たちもやはり活躍できる知識的な素地は高いわけなので

「とりあえず現地に行ってみれば何とかなる精神」

は大事かなと思います。

では！

ゆう

追伸・・・それで、私は結構言語は色々試していて  
「スカイプ英会話」なんかも今はメジャーだけど  
まだメジャーになる前の15年位前から  
やっていたんですね。

最近はやっていないけど。

それでこの「スカイプ英会話」とか最近は韓国語も中国語も  
あるけど

こういうのをやるのもいいです。

そこである程度その言語で自己表現はできるようになります。

ただ・・・上に書いたようなリスニング能力上達するのは  
やはり現地の生の音のほうが圧倒的に成長効率が低いのは  
事実なので

一番効率がよいのが 現地に行って生活しながら  
アウトプットも定期的にしながら  
現地にいながらスカイプの英会話なり韓国語会話をする  
ってことですね。

これをやるとかなり上達は

現代の技術を活用した方法の中では  
最も早くなりますね。

逆に、日本で主流の文法中心教育だとか  
あとはリスニングだけする教育では一生話せるように  
なりませんので、

やはり努力も全然違う非効率な努力をしても結果として  
報われませんので

「努力の方向性」も考えるべきです。

人生の時間は有限であるがため、

努力できる時間も限られてる

~~~~~  
のでその「努力が効率的である」ことが必要ですね。

投資でも色々なロジックで右往左往するよりも

エリオット波動と、ダウ理論とグランビルの法則だけ

徹底的に学ぶ努力したほうが圧倒的に資金を儲けるという意味では

効率が良い物ですが

これは語学学習だけに限らず全ての分野に適用して言える事実であるから

「努力の方向性」を定めることも重要でしょう。

私はその辺を語学学習でかなり経験してきたのだけど
それは投資でもビジネスでも大いに役立った経験ですから
このようにシェアして書いてるわけです。

追伸2・・・また学習方法についてもさらに書きますが
例えば「海外で生活するなんてそこがハードルが高いんだよ」
って言う人もいると思う。

けど大丈夫です。

実は日本語話者のバリバリカタカナ英語の2者が
頑張って英語で二人話していても

実はお互い人間の生の音なので、かなり上達します。

リスニング能力も、聞くだけという方法よりはかなり
上達します。

これは「アウトプット」=自分で英作文して
それを発音する

ということがかなりそれに貢献するからですね。

音自体は日本語ベースの音であっても、日本人同士で英語を話していてもちゃんとアウトプットをするので上達するのです。

少し訛りは出るでしょうけども。

だから小学校の授業では単純に英語の基礎を教えてそれで生徒同士に徹底的に 英語なり中国語ベースでディベート、議論をさせる授業を取り入れれば一気に日本人の語学能力は補強されます。

が文科省はこういう事実を知らないから迷走しているのだけども。

(※たぶんだけど、このディベートという体制をとってしまうと

「考える力」を持った子供が沢山生まれてしまうから

それを官僚たちは危惧してる。考える国民は奴隷として酷使できない、と彼らはそういうことも考えてる)

なので仮に海外に行けないよ、って人でも

日本にいながらにしてやる気ある日本人探し出して

その日本人と毎日英語会話やディベートすることを繰り返すことで

かなり英語は上達しますね。

だからこうやって努力もちょっと工夫していくと良いと思います。

それは長期的に人生の向上につながりますね！

だから努力した人が成功したり人生の満足度をあげられるのではなくて

「自分で考えて」努力の方向性を定めて

努力をした人が人生の満足度をあげられるってことですね。

その努力の方向性を定めるためには知識が大事ってことです。

では！